

## 戦後 70 年 未来へ生きる私たちへ

表題はキャッチネットワーク (KATCH)の戦後 70 年「特別番組」のタイトルである。KATCH は愛知県西三河の刈谷・安城・高浜・知立・碧南・西尾をエリアに活動するケーブルテレビである。

なぜ私が KATCH なのか。じつは卒業生に「キャッチ」されたからだ。2 ヶ月ほど前に依頼があり、戦後 70 年「特別番組」制作について相談をうけた。いろいろ迷ったが、せっかくの卒業生からの依頼であり引き受けることにした。金山の都市センターで卒業生から番組企画の詳細を聞き、西三河の戦時から戦後について調べていった。

KATCH のホームページを見ると、写真のような番組 CM が流れていた。写真下は太平洋戦争の開戦を告げる指令「ニイタカヤマノボレ」が送信されたと言われる「依佐美送信所本館」である。

戦後 70 年をどう考えるか、私が最初に言いたかったことは、下記の原稿としてスタッフに送った。番組の最初でも紹介される予定だ。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と同じく、縦と横、時間軸と空間軸の二つの軸から問題を見るのが大切だと思います。

まずは時間軸から。1945 年 8 月 15 日に 15 年にわたる戦争が終わり、戦後の混乱から復興、空前の高度経済成長、バブルなどの時代を経て、現在に至っています。戦後 70 年が注目されるのは、戦後生まれが多くなり、あらためて戦争や戦後復興を問い直すことが求められているからです。戦争体験者の肉声を聞くことができる時間は、もう長くは残されていません。

歴史から学ぶことは、現在そして未来に生きる私たちにとり大切なことです。とりわけ国会で安保法案が議論され、国民の関心も高まっています。今まさに戦争と平和が問われています。

次に空間軸です。戦後 70 年を考えるうえで、この西三河という地域の特徴、日本や愛知県の中での位置も重要な視点だと考えます。大都市名古屋や豊橋・豊川などは軍需工場が集積し、徹底した空襲により大きな被害を受けました。空襲体験者らの証言が新聞などで紹介されたりしています。

この地域は一見すると、戦争の影響は少ないように見えますが、戦争の爪あとが様々な



ところに見られます。戦争関連の工場、学徒動員、学童疎開など、産業と生活、文化をはじめ多くの分野に戦争の影響が検証できます。たとえば学童疎開の受け入れは、県内では「碧海郡」が最多でした。終戦間ぎわの東南海地震、三河地震なども、戦争との関連が大きいです。

こうした時間軸と空間軸の両面から、この地域の戦後 70 年を考えていきたいと思います。

@「特別番組」の放送は地上デジタル 12 チャンネルで 13 日(木)14 時、21 時～など  
詳しくは KATCH のホームページから。

(2015 年 8 月 11 日)